

育てよう

鏡野のよい子シリーズ



「お父さんの音」

毎年十月になると、毎晩窓の外から聞こえてくる音がある。その馴染みのある太鼓と笛の音を聞きながら我が家の子どもたちは眠っている。

この音は、子どもたちにとって「お父さんの音」であり、地域の人々にとっては「守り継がれた音」なのだと思う。私の住んでいる鏡野町の地域では秋祭りの時に獅子舞が奉納されている。この獅子舞は、神社だけではなく地域の各家を回って来てくれるので、小さい子どもから高齢の方まで皆が間近で見て無病息災を祈ってもらえるありがたい伝統なのだ。

この獅子舞は、地域の青年団の男性が担っているのだが、この日の奉納のために二週間毎晩午後七時から九時まで練習をするのだ。我が家にとって、今となっては毎年恒例の「お父さんの獅子舞練習」だが、子どもが小さい時は毎晩いそいそと出かけていく夫を複雑な気持ちで見送ったものである。しかし、子どもが成長すると

ともに家にある篠笛を吹きたがったり、天狗や獅子の動きを真似てはしゃいだりする姿を見て、少しずつこの風習に慣れ、親しみを持ち、大切な伝統であると思えるようになってきた。

夜毎、神社から聞こえてくる音を聞きながら母と子で過ごす時間、

「お父さんの笛の音がするな。」
「音が鳴らん。お酒でも飲んどるんかな。」

等、子どもたちは父親に思いを馳せながら、何とも言えない安心感に包まれて、帰りを待ちながら眠る。これが伝統というものののだと思う。

夫のいない時間は家事も忙しく、けんかも起きるし、大変なこととは多い。それでも、この季節がくるとやはりこの伝統を地域で守り、子や孫へ残したいと思うのである。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会

大野小学校 奥井祐梨子

のびのびひろば

～こころをそだてるわらべうた遊び～

きょうは
どんなことを
するのかな～♡



せんせいが
みえた!



布あそび

様々な素材の布で



ゆらゆらゆられて
いい気持ち～

かがみの中央こども園では、毎月1回わらべうた講師の赤松先生と今井先生に来ていただき、0～2歳児と5歳児クラスがわらべうた遊びを楽しんでいます。肌と肌との心地よいふれあいや、わらべうた独特の美しく優しい言葉やメロディーに包まれて、ほっと気持ちが和らぐ時間です。0歳児クラスでは思わずうとうと眠くなるお友だちも…。

ちょっとした時間でできるもの、季節を感じられるものなど、教えていただいたわらべうた遊びを毎日の保育の中に取り入れ、情緒の安定につなげています。保育者が、わらべうたを歌い一人の子どもと楽しんでいると、「わたしも～」と言わんばかりに保育者の周りに集まり、自分の順番をわくわくしながら待っています♡

わらべうたを通して、安心して人とかかわった経験が子どもたちのすこやかな心を育てます。大切に伝承していきたいわらべうた遊びです。



くすぐったい～

くすぐりあそび
くすぐりっこだーいすき



ひざのせあそび

保育者が足をぱっと開いて
落ちると大喜び☆



こちょ
こちょ～!



(かがみの中央こども園)